



同社が扱う「ジオバンナ・エディション」のシルバーのSS RSベースが635万円、ブラックのRS LTベースが530万円。本来この名称はジオバンナの認可を受けたLAIにあるモンタージュ・モーターリングがカスタムしたモデルを指すが、これらは日本で立立てられている。ただしヘッドレストの刺繍はLAI立立。クルマのほか「ジオバンナ・バイク」も販売中。



Cadillac Chevrolet Kunitachi
 キャデラック・シボレー 国立
 2010年12月にオープンしたGM車専門の正規ディーラー。西東京エリアの販売をカバー。特徴はまるでLAIにあるようなたまたま、インテリアは白で統一され、メーカーのCIをアピールする。アクセスは中央高速の国立・府中ICから甲州街道を八王子方面へクルマで5分少々。「国立市役所入り口」の信号を越えた歩道橋が目印だ。水曜日、第3火曜日、定休。
 東京都国立市谷保6037-1
 Tel:042-575-2526
 www.stg-inc.jp



アメリカンなテイストいっぱいのディーラー!

まるでカリフォルニア気分
 東京の西、国立にちょっとおもしろいディーラーがある。その名はキャデラック・シボレー国立。実はオーナーの金子 哲氏は10年来の友人で、ワタシがアメリカ車専門誌の編集長をしている時代に知り合った。彼は突然編集部に「日本上陸第一号のハマーH2、取材してもらえますか?」と電話してきた。大胆だ。ところが昨年12月、なんと彼の会社STG(エス・ティール・ジー)がGMジャパンの正規ディーラーになった。アメリカ車の輸入販売ビジネスをはじめたから約20年。GM車のディーラーになるのは彼の長年の夢だったという。

ディーラーなのに、おもしろい理由はず、そのたまたま。甲州街道から敷地に入ると、パッと「これはアメリカ?」という雰囲気は切り替わる。日本的なショールームをドンと構えるのではなく、手前に広々とした駐車スペースを確保。左手にはファクトリーがあり、右手には新車がズラリと並ぶ。オススメは夕暮れ時だ。空が薄暗くなり、ネオンに灯が点ると、まるでカリフォルニアにいるような錯覚に落ちる。

ショールームの中に足を踏み入れると、さらに独特な雰囲気が出てくる。青くライト・アップされた奥の棚がその発信元だ。ディーラーではお目にかかれないはずの、めっちゃくちゃデカイホイールがディスプレイされている。

「これは22インチ、こっちは24インチ、こ、これは25インチ……!」なぜそんなものがあるかというと、



金子氏はもう1つ別の会社を経営していて、そこがこのジオバンナというホイール・ブランドの総輸入元なのだ。ジオバンナはアメリカにおいて超メジャーな存在で、全米最大規模のアフター・マーケットの祭典、SEMA Showで一番大きなブースを構えることでも知られている。

ジオバンナが一躍有名になった理由は、創業者ティコ・スライアン氏のことだ。愛車に合うデザインホイールがないことから、自ら造ることになったのがきっかけという。対象車種は実に様々で、それまでの「大径ホイールはアメリカ車」の枠を破り、フェラーリやロールズ・ペントレー用までラインアップする。

日本もようやくここまで来た。ジオバンナを扱うことになったきっかけは、もともと彼がいちファンだったことにはじまる。ジオバンナが日本での代理店を探しているとい

う情報を得ると、すぐさま事業計画書を作成し届けられた。こうした行動力は彼流のビジネス・センスだろう。こうして2003年から輸入販売ビジネスが始まった。

キャデラック・シボレー国立の立ち上げに際しては、GMジャパンと交渉。ジオバンナの魅力を熟知し、ディーラーながらアフターパーツのホイールを扱う許可を得た。今やディーラーでアメリカのホイール・ブランドもわかっちゃうのだ。

ところがそれで終わらないところが面白い。なんと同店では、ジオバンナ・エディションのコンプリート・カーまで取り扱っている!!

上の写真をご覧あれ。これがシボレー・カマロのジオバンナ・エディション。同社の22インチ・ホイールをはじめ、ボンネットやルーフにはストラップ、刺繍入りのヘッドレストなどなど……。ま、ディテールはもとより、とにかくこの迫力を味わってほしい。しかもこれでGMジャパンの公認! メーカー保証は3年/6万kmとバッチリある。

実はこのプロジェクト、ワタシも一投資している。新車を購入したユーザーからカスタムの相談を受けることが多いので、いっそもはじめてから提案してしまおうと考えたわけ。コンセプトは「ベタになりすぎないイマドキのアメリカン」。最近ファッションの世界ではイタリアでアメリカが流行中。そこでちょっとびりイタリアン・テイストも注入してみた。

最新アメリカンな空気運うキャデラック・シボレー国立。ぜひ一度足を運んでみては。ディーラーに対するアナタの概念、吹っ飛びます!!

九島辰也と行くアメリカン・スペシャル・ショップ・ガイド
アメ車は深い。そしてアメ車のスペシャリストたちはさらに深い!



九島辰也。元アメ車専門誌編集長の別業も持つ自動車評論家。今回はアメ車スペシャリストたちの水先案内人として登場。

アメリカ車の販売の現場はいま、どうなっているのか? それを探るべく
 正規ディーラーから旧車専門店まで、ニッポンのアメリカン・カー・ショップを訪ねてみた。
 ガイド役はアメリカ車とアメリカ車のスペシャリストに精通する九島辰也氏だ。

文=九島辰也 写真=柏田芳敏



キャデラック・シボレー国立の代表取締役、金子 哲氏は横っからのアメリカ車好き。学生時代に留学先のリノやLAで過ごしていた頃から、アメリカ車をカスタムして乗り回していた。帰国後にクルマの輸入ビジネスを開始し、90年代はリフトアップしたシボレー・サバーバンやタホを数多く日本へ紹介。2000年以降はジオバンナブランドを通じて、アメリカのカスタム・カルチャーを伝えてきた。ジオバンナのホイールの中でも日本の安全基準に合ったものは、国土交通省の定める軽合金製ディスク・ホイールの技術基準に適合することを示すJWLマークが付く。ディーラーになる以前から、そうしたコンプライアンスを重視するのにも縁のスタイルだ。